

は難しい

【美】
 (69) として、優先席に座っていた時のこと。目の前に若い女性が立った。バッグにマタニティー(妊娠)マークのバッジをぶら下げている。気をつかわせては悪いと思ひ、次の駅で降りるふりをしながら複雑に座った。振り向くと、妊婦さんが座った者として、これからの人を比べれば、優先されるべきは後者だ」と理屈をつけて納得した。電車の席のマナーは難しい。

恐ろしいぞ

【司】
 (72) 私の知り合いに強引なやり方で財産を築いた男性がいる。気の毒にも、彼の息子や孫は事故や火事など不幸に多数見舞われた。これを「お天道様の裁き」と考へるのは私だけだろうか。
 今の乱れた社会を道徳教育だけで変えることはできない。ただひとつ「お天道様の裁きは何代も続き、恐ろしいぞ」と大人も子どもみんなが信ずるようになるれば、いい世の中になるだろうな。

心身につく

【ヨ】
 (92) と、一本も枯れず良い実がなつたと喜んでいました。一方、キュウリは早めに収穫し、甘酢に漬けてピクルスにしたらしいと言いました。

【ケアハ】
 野菜作りは失敗するとやり直せるのが1年後で、何年も試してようやくコツをつかみます。「30分ほど私の話をメモしたら野菜はできるけれど、本当は自分で失敗を重ねた方が身につくのですよ」。

小平市の住民投票

足かせになった50%要件



獨協大学教授 (開発社会学) 北野 収しゅう

東京都小平市の都市計画道路建設を巡る住民投票の投票率は35%にとどまった。住民投票条例の可決後、市長側が追加的に定めた「投票率50%未満ならば不成立」という要件をクリアできず、開票はされない。とはいえ、今回の「民意の数値化」には様々な矛盾や盲点がある。

第一に、投票の趣旨などの周知を行政が実質的に放棄していた。チラシ配布をして驚いたのは、「投票はどの市であるのか」「何を問うのか」という基本情報を知らない人があまりに多かったことだ。通常の選挙なら各所に告知板が立てられ、候補者の写真、所属政党、スローガンが示される。住民投票では、投票券の送付や市報などを除き、周知活動のほぼすべてが、市民ボランティア(ほとんどが会社社員、主婦)が配るチラシ、ポスターに委ねられ

た。選挙同様、告知板を各所に用意し、投票の趣旨と選択肢を掲示すれば、投票率は確実に向上したはずだ。

第二に、50%要件が二重に不利に作用した。まず建設賛成者には「計画見直しの必要なし」に投票するほか、投票を棄権する選択肢ができた。ピラを渡した建設賛成者の全員が「投票に行かない」と答えたのは合理的な選択だ。さらに「見直し側」に投票を諦めさせる誘因にもなった。「どうせ捨て票になるから行かない」という男性の言葉はその証左だろう。投票したのは「コアな見直し派」にほぼ限られたのではないか。

第三に、受苦圏と地域がズレた点。受苦圏という概念は住民が享受していた便益が、開発で消失する地理的広がり指し、通常、住民の生活圏に重なる。道路建設で玉川上水という史跡の一部と里地の断片(雑木林)が失われれば、地域の人たちの便益が失われるのは明らかだ。一方、住民投票の単位は自治体で、受苦圏とは必ずしも一致しない。同市の北部地域の住民より、むしろ隣接する国分寺市、立川市のほうが道路建設で失われる玉川上水の緑地の受益者は多いのが実情だ。

最後に、消失予定の雑木林の「最大の受益者」は子どもである。子どもの声の反映どころか、把握すらされていない「地方自治」のあり方には疑問を感じる。

今回の住民投票は実施・運用面で行政側の意図が強く反映され、理不尽ともいえる二重三重の足かせがあった。それだけに、投票率35%は低くはない。今後、各地で50%要件が横行し、地方の民主主義が機能不全に陥る可能性もある。50%要件の是非を含め、真摯な議論が必要だ。

私の視点

地中海に面するエジプト北部の都市アレクサンドリアは、ムルシ政権を支える穏健イスラム組織、ムスリム同胞団の拠点として知られる。この

後

年に出てくる主人公ら5人のグループのように。ただし、全員が男性だった。「次第に自分の人間関係の100%が同胞団になった」ハッサンさんによると、最

係を解除)した。残った友人は脱会者の2人だけだった。自宅で失意の5年間を過ごした後、決意する。「友人関係も仕事も、一から作り直す」。いま、カイロを拠点に